

# 体力測定を保護者と 高校と合同実施も

# 児童、生徒の体力向上へ工夫

測定係を務める高校生のアドバイス後、立ち幅跳びに挑戦する小学生  
＝城野小



子どもの体力低下が指摘されて久しいが、6、7月に体力テストを実施している北九州市内の小中学校は、テスト前にそれぞれ工夫を凝らした取り組みを実践中だ。同市のテスト結果は昨年度に好転し、特に中学2年生は統計を取り始めて以来初めて全国平均を上回った。「運動好きな子をはぐくみたい」と、教育現場はあの手この手を講じている。(一瀬圭司)

保護者や地域住民を招いた体力テストを6月23日に実施したのは長尾小(小倉南区)。5年生約60人と保護者ら約20人が上体起こし

## 北九州市内の小中学校

## 「スポーツ好き育てたい」



顔をしかめつつ、児童と一緒に上体起こしをする保護者  
＝長尾小

や50<sup>メートル</sup>走など7種目で一緒に汗を流した。明石美奈子さん(38)は種目別記録を長男貫汰君(10)と見せ合い「息子が思春期に入る前に、まだまだ母ちゃんに勝てんぞ、というのを見せた」と笑顔。貫汰君は「来年は勝ちたい」と意気軒高だった。発案した埴田靖宏校長(49)は「保護者に子どもの体力に関心を持ってもらい、生活習慣の見直しにつながってくれば」と効果に期待する。

同区の城野小、城南中、北九州高の近隣3校は同20日、初めて合同体力テストに臨んだ。同高体育コース生徒約40人が小中学校生約200人の助言役となり、反復横跳びなど6種目で体力測定。世代を超えた交流で、小中学生に「お兄ちゃん、お姉ちゃんみたいになりたい」との気持ちを引き出すのが狙いだ。立ち幅跳びでは高校生が「腕を大きく振ってタイミングを合わせる」と遠くに飛べるよと助言。50<sup>メートル</sup>走では児童に並走し「頑張れ」。50<sup>メートル</sup>走で自己最高記録が出たという小学4年の末弘旭君(10)は「高校生は優しくて面白くて、楽しかった」。高校1年の

坂口むつみさん(16)は「小中学生はかわいい。難しくない言葉でアドバイスした」と笑った。  
市教育委員会によると、小学5年と中学2年が対象の体力テスト結果は2008年度の調査開始以来、全国平均を下回ってきたが、16年度に中学生男女が初めて上回った。全国平均に達していない小学生男女も「差を縮めている」という。体力テスト日を「オリンピックデー」と名付け「子どもの気持ちを高ぶらせる策をとるところも」(市教委)ある。学力・体力向上企画担当課の沢村宏志課長は「生涯を通じたスポーツ好きを育てたい」と強調した。